

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1291200440
法人名	医療法人社団のぞみ会
事業所名	グループホームあおぞら
所在地	〒270-2223 千葉県松戸市秋山48-5
自己評価作成日	平成30年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.minnanokaigo.com/facility/022-1291200440/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生
所在地	275-0001 千葉県習志野市東習志野3-11-15
訪問調査日	平成30年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「安心して楽しく、ゆったりと、自分らしく生きていく家を提供したい」、そんな思いから生れたのが、グループホーム あおぞらです。日当たりの良い一軒家で、掃除や洗濯、食事の支度などの日常生活を通して、お一人お一人に合ったプランを組み立て、じっくりとケアを提供しています。入居者様、ご家族、それぞれの思いや希望をお聞きし、
 ①笑顔と笑い声のある生活 ②生きていると実感できる生活 ③持てる力を発揮できる生活 の理念を スタッフ全員で共有し、日々の生活を支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

季節のイベントを数多く取り入れ、四季折々のものを感じ取って頂く工夫がされている。外に出るといことは、例えば「ああ、今日はとても温かいね」と利用者と職員とのコミュニケーションが弾むことから普段の生活からでは見えない、今まで知り得なかったものが利用者から見つけることができる。その人の潜在能力を引き出すよう、ホーム全体で取り組んでいる。さらに特徴の一つとして挙げられるのは、利用者が自ら材料を選んで購入したものをホットケーキ、ミックスゼリー、桜餅、ぼた餅等皆で作って味わっており、参画意識を高めその人が出来る事を引き出してあげるように努めていることである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	①持てる力を発揮できる暮らし②生きていると実感できる暮らし③笑顔と笑い声のある暮らし、以上の理念を掲示し、ケアに繋げるよう努力している。	職員の定着率が良く既に理念が身についている。利用者には自分のやりたい事をやりたい時にしてもらうようにしている。外に出るとスタッフとのコミュニケーションが弾むことから普段の生活からでは見えない今まで知り得なかったものが利用者から見つけることが出来るなど、その人の潜在能力を引き出すよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町会の行事・近隣高校の行事への参加、地元の高校の福祉科の実習生をて受入れるなど、地域活動に参加している。又、近隣の美容院、飲食店、スーパー等を利用し、友好に努めている。	秋山町会に加入し中学校のバザーやグランドゴルフを見学に行く。また、近くの藤棚を見に行き地域の方々とコミュニケーションを楽しんでいる。向かいの和保育園の子供たちが敬老の日等イベントには踊りや歌を披露してくれたり、運動会に招待してくれる。節分の時は職員が福や鬼になり保育園に行き大いに盛り上がった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談を受けた時に支援方法などを伝えたり事業所として持っている情報を知らせている。又、地域に積極的に出て、認知症の人々の生活実態を理解してもらうようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町会長、民生委員、地域包括支援センター職員等の参加を得て2ヶ月に1回開催している。事業所は積極的に情報を発信し、参加者の意見を聴きサービスに活かし、地域との関わりや理解を深める機会としている。	年6回開催する運営推進会議で特筆すべきは、同業者(他のGHの管理者や施設長)が参加し情報交換の場となっている。実例として、何度も転倒している利用者に対して家族と相談の上、就寝後布団やベットの柵に鈴を付けるようにし、職員の不安が解消された。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	個別の用件及び市主催の研修会・説明会等で市職員と話し合う他、利用者等の要望に応えるため改善点を話し合う介護相談員と事業主団体との意見交換会に出席し市職員と意見交換を行い協力関係を構築している。	市の介護保護課とは、介護報酬の改正等について市内43GHIに対する集団指導の際に話し合ったり、空き室の入居者希望要請を行ったりしている。また、運営推進会議に出席してもらったり、服薬等の研修会時に情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設責任者を含め千葉県高齢者権利擁護・身体拘束廃止研修に積極的に受講し、そこでの学びを職場にてフィードバックして、常に身体拘束をしないケアを実施している。またミーティングにて身体拘束をしないケアの正しい理解を深めている。	千葉県高齢者権利擁護・身体拘束廃止研修に2名が参加し、歩けない利用者には安全ベルトを使用することや声掛けによる拘束(ちょっと待って、危ないからやめて等)について、出来る・出来ないがあるので内部研修の中でスタッフ間で良い事例を共有しケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記同様、県の研修に職員を送り、その研修報告と勉強会を実施。尊厳と虐待について共通理解を深め、ホームの中で虐待が見逃ごされることがないように、スタッフ間で常に注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて行政の研修に参加している。又、成年後見制度を利用されている入居者もおられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に十分な説明を行い合意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族が意見、要望を言い易い雰囲気作りを常に考えている。ご家族の面会時には利用者の日常の様子を丁寧に伝え、要望を伺うなど話し易い雰囲気作りを常に心掛けている。	面会時に介護支援記録を閲覧できるようにし意見・要望を聞いたり記入してもらったりし、代表者が電話で報告するようにしている。朝リビングで寝ている時間が長いので何とかならないかとの要望に対し医師に相談し薬を少しずつ減らすようにした例もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は管理者を兼務して日常業務にも携わり、毎日の申し送り時、月例ミーティング等で職員からの意見・提案事項を皆で協議し、実務に反映させるよう務めている。	毎日の申し送り時や月例のミーティング等で施設長が意見・要望を聞き会社へ上げる様にしている。居室内でいつも同じところで転倒するのでベットの位置を変えたり、ベッドの高さを調節したりして転倒防止を図った。必要な申し送り事項を書いておくためにボードを準備するようにした。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員が気持ちよくやりがいを持って働けるよう、就業環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社外の研修・セミナー等に職員を参加させている。社内においては事例検討や介護技術に関して、必要のある都度実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	松戸市認知症高齢者GH協議会に加入し、主催される研修会・施設見学会に参加し交流を図り、サービス向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者ご本人の言動や表情などに注意を払いながらご希望を聴くと同時に、ご家族からの情報をもとに、ご本人が安心して生活できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とのコミュニケーションを蜜にとることを心がけ、思いや不安を受け止め、ご要望を聴きだし、ご家族との良い関係作りに務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援については、ご家族と相談しその対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除 調理など暮らしを共に行う中で職員入居者、それぞれの良さが混じり合い 穏やかで家族のような関係ができていると思う		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には日常生活、変化をお知らせし、面会時には外出・散歩の同行、居室でゆっくり過ごして頂くことをお願いし、ケアの共有を目指している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族が共に支える気持ちを継続していけるよう配慮しながら、親戚・友人等の連絡や面会など、いつでも受入れている。手紙のやり取り、電話の取次ぎ等をして、交流を図っている利用者もいる。	海外旅行へ行った仲よし3人組の友達が面会にきたいと電話が有ったり、昔行った伊豆の河津桜を見て温泉に入りたいとの要望が有ったりする。また、落ち着かない時は、買い物ついでにドライブをしながら家の近くまで行ったりし、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員の細やかな配慮と支援で、利用者同士が労わり合い、和やかな関係を築いていけるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設に移られた方から介護内容に関する相談を受けたり、不安を聞かせて頂くこともあり、退去後も相談や支援に努めている。又入居に至らなかった方の家族からの相談も含め対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中での表情、動作、言葉の中に見える「その人の思い・意向」を汲み取れるように努め、じっくりと話を聴く時間をとるよう職員全員が努めている。	何を聴かれているか分からなくなってきている人が多くなってきており、意思の疎通が困難となっている。そのため、普段の生活の中で何気なく発した言葉から本人がどんな思いを抱いているのか汲み取るようにしている。また、職員は利用者の傍に坐っておしゃべりする形で時間を掛けて思いや意思を知るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	常に入居者とのコミュニケーションを図り、日常会話や昔話の中から現れるその人らしさの発見やご家族との連絡を蜜にし得た情報を職員間で共有するなど「その人」を知ることにつとめている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中で表情や体調など観察し一人一人の生きる力の把握 又その力の引き出し方等 こまめに話し合い共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を伺い 職員からの情報や 専門職の意見も交換しあい それらの情報をもとに介護計画を作成している	家族の要望に関しては、家族が訪問された折などに本人の生活状況を話しながら、要望等を聞き出すようにしている。毎日記録される介護記録と朝、昼、夕、一日3回の送り時に職員からの情報が入って来て担当者会議で諮られケアプランの見直しがされていく。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの変更やその結果など 本人の日々の状況を事実に基づいて記録し 毎日の送りの中で職員間で共有し より良いケアに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	それぞれの入居者の要望を伺い、スタッフ間で検討を重ね個別の対応ができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによる非日常的なイベントや町会 近隣の高校などによるイベントへの参加をしたりし 又 近隣のショップを活用し好みの物の購入など 日々の暮らしが豊かになる様 努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療で常に健康状態をチェックし、症状にふさわしい医療がうけられるようにアドバイスや紹介をいただく、その連携の支援ができています。緊急時には電話での相談もして頂ける。	現在、入居前から内科のかかりつけ医に掛かっている方が1名いる。家族と一緒に通院されているが家族の方も同行が難しくなり他の利用者と一緒に提携医に診てもらおうかが検討されている。かかりつけ医からの診断書は看護師に提出し相談に乗ってもらっているが、最終的には提携医のもとで利用者全体の状況が分かるようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	「看護師との連絡ファイル」で入居者についての気づきや情報、相談事を記録し アドバイスを受け適切な対応ができています。さらに24時間看護師との電話連絡が可能となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には付き添い、面会に伺うなどして入居者に安心していただき、担当医師や看護師に直接入院者の容態を伺うなど、情報交換をおこなっている。退院時指導相談内容等もご家族と共有するなどし、連携を密にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の状態に応じ、医師や看護師に相談、指示を受けながら、ご家族と話し合いを重ね、より良い選択ができるよう取り組んでいる。	入居時に「重度化対応に関する指針」として纏められた対応の仕方を説明し、契約書とは別に了解を得た上で署名してもらっている。現在までに、看取りの実績として1件ある。その時には利用者の状況を見て看護師同席の上、家族と十分に話し合いをして希望に沿うような形で対応された。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急搬送や災害時対応など、月1回の定例会で状況に応じて話し合いを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホーム内での避難訓練を年2回実施。本年度は6月と12月に実施。スプリンクラー設備・火災通報装置・火災報知機を設置されており 使用方法についても職員間で周知している。又近隣の施設とも運営推進会議を通じ 助け合える関係づくりを検討している。	昨年度市の指導のもと、火災対策だけでなく「グループホームあおぞら災害対策マニュアル」が作成された。緊急避難場所として、真向かいにある松戸向陽高校のグラウンドを設定している。6月と12月の2回避難訓練が行われたが12月には消防署立会いで水消火器訓練も行われた。	近くには、交流が深まった「和(なごみ)保育園」がある。災害対策として保育園と共同で行い、より効果を高めた訓練を行うことが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「その人にあった接し方」「その人の自尊心を損なわない」対応を心がけ、朝夕の申し送り時や職員の定例会議などで話し合い、介護の基本とするよう心がけている。	プライバシーの中で一番注意しているのが、トイレ誘導である。他人にわからないように、自然な形でトイレに行き用を済ませ戻ってくることで、本人の尊厳を保つことにしている。あるいは、入れ歯をしている人が皆の見える正面を向いて入れ歯をするのではなく、方向をずらして何気なく出来るといった配慮を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が入居者の中にはいり、自己を表現しやすいように助言や対話を心がけ、自己決定できるように工夫している。小さな出来事でも本人の決定ができ それらが希望の表出により繋がって行けるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「行きたい・～したい」などの要望は常に話し合うようにしている。又職員の方から提案し意見を出して頂く等している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1～2ヶ月に1度 要望時近隣の美容院に行っている。自立の方はもとより 介助の必要な方にもご自分で衣類や好みの小物など選べる様促し 近隣の店舗での買い物支援も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつを手作りして自分好みにデコレーションしたり 調理の手伝い 盛り付け 片づけなど一人一人に合った手伝いを極自然にされている。	ホームの特徴の一つといえる。ベランダにプランターを使った野菜作りがされており、誰もがホールから毎日見て、野菜がもう食べごろだねという会話が出ると、それを使った料理となる。食事の話題の中に、“これベランダで作った野菜だよ”と、食べるだけの楽しみでなく自分たちで作ったものを食べる喜びが加味され、食事自体を豊かにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量は記録し、健康状態の参考とし、制限、嚥下状況、好み等を把握し、個々に応じた対応を努めており、バランスの良い食生活の支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後 職員による義歯洗浄は夜1回行っている。個々人に合った口腔ケアの自立を支援し 歯科医とも連携しながら必要なフローを行っている。外出後は必ずうがい手洗いを行うなどしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意 便意の訴えの無い方も定期的な排泄誘導でトイレで排泄されており 汚染は最小限にとどめられている。個々人の排泄のサインを見逃さないよう努めている。又オムツ類を使用されている場合でも その必要性については細目に検討しなおしている。	「排泄チェック」を台所の近くに置いて職員が気付いた時点で記録し、失禁することのないようにトイレ誘導をしている。職員がトイレで用を足すまで待っていると、利用者によってはスッキリとした表情が見え、職員と共に喜んでいる。極力おむつを使わないで済むようにしながら注意を払っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの良い食事 水分の摂取 適度な運動の他 おやつ作りに乳酸菌や 牛乳繊維質ものを工夫するなど服薬のみに頼らない 取り組みなどで個々人に合った便秘解消を工夫している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本週2回の入浴となっているが一人一人の希望に合わせて 時間変更 入浴日変更が行えるようになっている。入浴にかかる時間も その人の好み 状態により合わせている。	季節に応じたゆず湯、菖蒲湯、ミカン湯等取り入れている。家族が持って来られた柚子をお風呂に入れ、「これは〇〇さんの所で持ってきた柚子よ」と紹介することでその利用者も満足している。身体の部分洗いをしながらおしゃべりや鼻歌が、一層入浴を楽しむことに繋がっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援	それぞれの入居者がご自分のペース、健康状態にあわせ自由に就寝、良眠されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬は個人の「処方箋」「看護師との連絡帳」に記述有り いつでも確認できる。服薬の変更や症状の変化等 職員間で共有し 必要時24時間体制で看護師に相談できる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レク、日常の仕事、外出など無理をすることなく楽しみ、それぞれの役割も自然にできている。買い物外出の折には、好きなおやつ、食品など自由に選び楽しめている。役割も自主的に行なっておられる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩 時々の外食会 買い物 ピクニックなどを行い入居者の意見も伺い極力取り入れている。家族同行のピクニックなどもおこない家族ぐるみで外出できる様支援している。	最近ではみんなで散歩ということが、難しくなっている。「散歩表」というリストを作り、あまり散歩の少ない人には優先的に声を掛け一緒に外に出るような試みもしている。年間行事の中でイベントを組み家族にも案内を出し、一緒に外出する機会を設けている。今年度は、近くの梨園に出向いて梨もぎをして楽しんだ。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で財布を持たれている方もいる。小遣いをご家族からお預かりしている方も外出や買い物に同行した折にはご自分でその中から支払えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に交流ができて、本人の意向に添えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな窓と少し高台になった広いテラスがあり、屋内にいながら広々と自然を感じる事ができる。テラスに出ると近隣の方との交流もできる。日中、夜間とも静かな環境で、冬には床暖房も設置され快適にすごせている。	一日の大半を過ごすホールとベランダの一体感を感じるようにベランダでプランターに野菜を植え、皆で毎日それを見て、“そろそろ食べ頃かな”といった話題作りにもなっている。安全面から、ホール内で車イスが通れるように椅子の配置に気を付けている。	車イスの利用者が増え、簡単にベランダへの移動が難しくなっている。スロープ等を付け、ベランダに出て外気を吸い道行く人達との交流が出来る工夫が望まれる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングフロアで集い、一人一人ソファや椅子、テラスでの日光浴とその時々にご自分にあった場所ですごせている。個々人がやりたいことを自由にやりながら過ごせる雰囲気もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの物や自作の品、ご家族の写真を飾れるよう棚も広く、自宅から使い慣れたイスや筆筒をいれ、TVを設置しその人なりの居心地の良い「居室」ができています。その方の状態にあった家具を家族と相談し準備することもある。	馴染みの物を使うことで利用者はリラックスする傾向にある。使っていたソファに座っていると、昔のおじいちゃんの姿そのものが現れ、会話のネタともなっている。安全面からは、夜間、ベッドから起き上がって歩き出す人に限り家族の了解を得て夜、布団やベッドの柵に鈴をつけ職員が鈴の音で気付くといった形で事故防止を心掛けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活をしていただけるよう、エレベーター、てすり、スロープを備え、できるだけ自立で動けるよう配慮している。必要な個所には張り紙を行い 迷うことなく自力で移動できる様工夫している。		